

2020年6月2日

資料館通信 第76号

ふじみ野市立

上福岡歴史民俗資料館
大井郷土資料館

埼玉県ふじみ野市長宮 1-2-11

TEL 049-261-6065

埼玉県ふじみ野市大井中央 2-19-5

TEL 049-263-3111

令和2年度第1回企画展

「なつかしのレコード in ふじみ野」

令和2年6月2日(火)～6月28日(日)

令和元年度特別展「ふじみ野 150 年」では、主な歴史的な出来事の記録とともに、市内に暮らしていた人々の生活や娯楽を描き出そうというねらいのもとに展示を行いました。特別展で展示しきれなかった娯楽関連資料としてレコードがあげられます。資料館所蔵のレコードで流行歌、名曲として愛されたレコード、旧上福岡市、旧大井町の音頭、小唄を紹介するとともに、令和2年は、東京オリンピック開催予定の年でもあったことから、オリンピック関連のレコードを中心とした資料を展示しました。なお本文中の人名は敬称を略させていただきます。

ポータブル蓄音器 (コロンビア No. 120)

1933～34(昭和8～9)年頃

※金沢蓄音器館 八日市屋典之氏のご教示による



蓄音機 (レコードプレイヤー) のはじまり

トーマス・エジソンが電話機の構造から針の動きを刻んで、その針の跡をなぞって振動板に伝えれば音が再生できるのではないかと考え、すずの薄い板をロール状にしたものをまわす「フォノグラフ」を1877年に発明したのが蓄音機の始まりです。その10年後の1887年にエミール・ベルリナーが円盤型のレコードに細かい深さの違う溝を刻んで回転させて音を出す「グラモフォン」が蓄音機 (レコードプレイヤー) の直接の先祖となります。展示では、1930年代頃のポータブル蓄音機を紹介しています。

オリンピックの歴史と東京オリンピックの資料

オリンピックは、本来ギリシャのオリンピアで紀元前9世紀頃からはじまったゼウス神をあがめるオリンピア祭典競技と呼ばれるものでした。太陰暦と太陽暦が一致するのがおよそ8年でその半分の4年に一度ということになったとされます。

19世紀末に古代ギリシャのオリンピアの祭典をもとにして世界的なスポーツ大会を開催する事を提唱され、賛同者によって国際オリンピック委員会が作られ、1896年の夏季オリンピック第1回アテネ大会の開催につながりました。1964年の東京オリンピックは第18回大会で、次の東京オリンピックは32回目となります。

東京オリンピックの資料として上福岡と大井の両資料館には、レコードや旗、新聞などの資料があります。また、記念通貨や記念メダルも発行されていたため、市民の方から展示にご協力いただきました。

東京五輪音頭は、東京オリンピックの前年の1963年6月に古賀政男による楽曲が発表されました。録音権を各レコード会社に開放していたため、三波春夫（テイチク）、橋幸夫、つくば兄弟・神楽坂浮子（ビクター）、三橋美智也（キング）、坂本九（東芝）、北島三郎・畠山みどり（コロムビア）、大木伸夫・司富子（ポリドール）などの競作が発売されています。東京五輪音頭のレコードは、300万枚前後売れましたが、最も売れたのは三波盤で、1964年末までに130万枚を売るヒットとなりました。

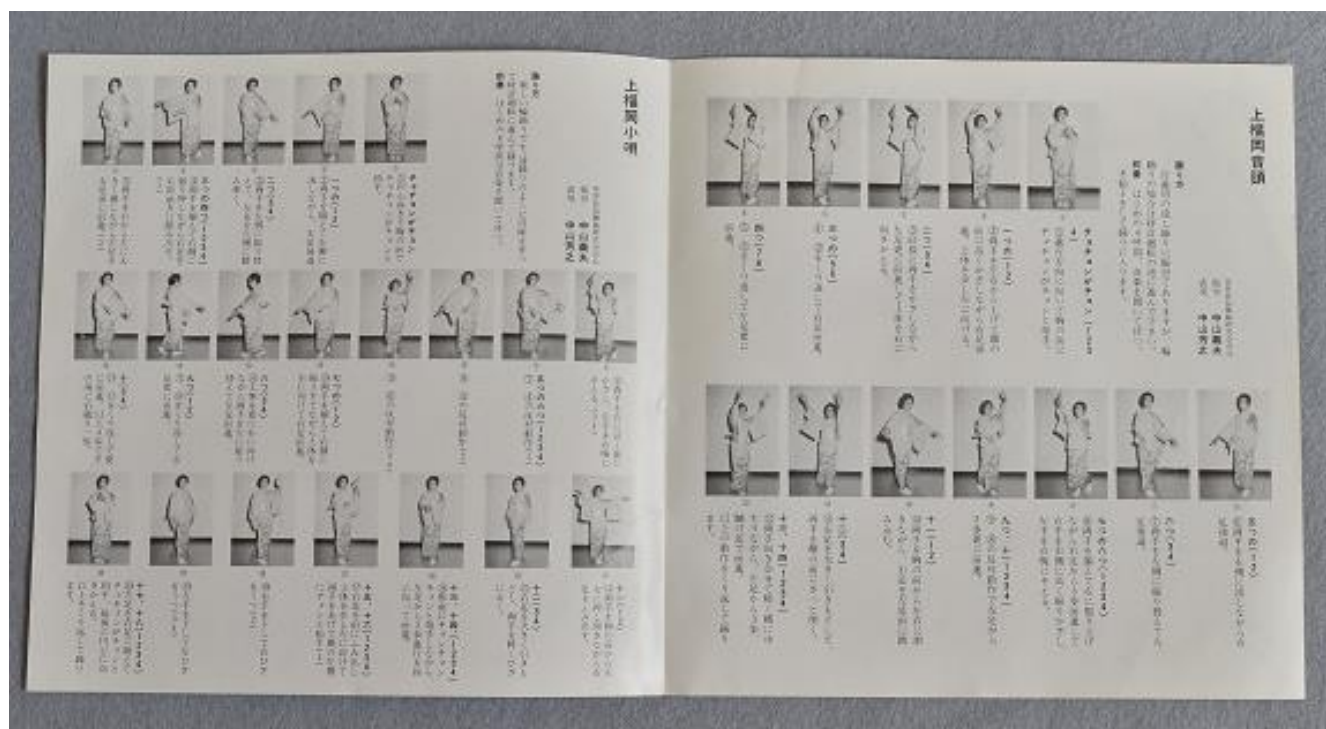
最も売れた理由として、1964年の「第15回 NHK 紅白歌合戦」のトリを狙う目的で集中的にプロモーションを行ったことが三波盤の売り上げに貢献したのではないかとわれています。



「この日のために」
「東京オリンピック音頭」レコード

福岡音頭、福岡小唄

「福岡音頭」は、1955(昭和30)年につくられ、岡本ひろしによって作詞されました。ラベル A 面に「福岡音頭」、B 面に「福岡小唄」の題名とともに「福岡村公民館選定」「福岡村人会振付」と記載があり、ジャケット内面に「福岡音頭」と「福岡小唄」の振付写真があります。1948(昭和23)年以降の公民館活動と、1950(昭和25)年に創設された福岡村婦人会の活動が活発化したことを反映する資料です。



上福岡音頭、上福岡小唄の踊り

上福岡小唄と上福岡音頭

1979(昭和54)年に、「福岡音頭」や「福岡小唄」に代わる新しい歌をという声にこたえて、ふるさとづくりの一環、上福岡市のPRのために、8月の七夕まつりに間に合うよう製作が行われました。「上福岡音頭」は岡本ひろしがあ

らためて作詞を行い、「上福岡小唄」は、4月から5月15日まで公募が行われ、19編の応募がありました。「上福岡音頭」は、作詞家の関根栄一、「上福岡小唄」は、こませ・たまみによって補作、双方とも作曲家の寺岡信三によって曲がつけられました。6月下旬にビクターの第3スタジオで、78年にゴールデンアロー賞芸能部門新人賞を受賞し気鋭の民謡歌手の金沢明子が音頭の吹込み、佐渡おけさで知られる民謡歌手、小杉真貴子が小唄の吹込みをそれぞれ行い、7月27日にビクターよりリリースされました。

大井音頭、ふるさと大井

大井町の歌「ふるさと大井」と「大井音頭」は、1980(昭和55)年1月に歌・音頭選考会議を発足させ、歌詞の内容が町の特色をとらえてすべての町民が永く歌えるものとして町民から募集を行いました。『広報おい』1月15日号では、町の歌を「学校の行事や式典などにうたえる歌で、三番までとする。」、町の音頭を「祭りや盆踊りなどで、みんながやさしくうたったり、踊ったりできるもので、三番以上とする。」としています。締切りの2月29日までに歌が28編、音頭が23編集まり、町の歌「ふるさと大井」と「大井音頭」の歌詞は、作詞家の関根栄一の添削編集により4月下旬に、曲は作曲家の湯山昭によって6月上旬につけられて完成しました。録音は7月にキングレコードの第1スタジオで実施し、完成を祝して7月20日に大井中央公民館で発表会が行われました。

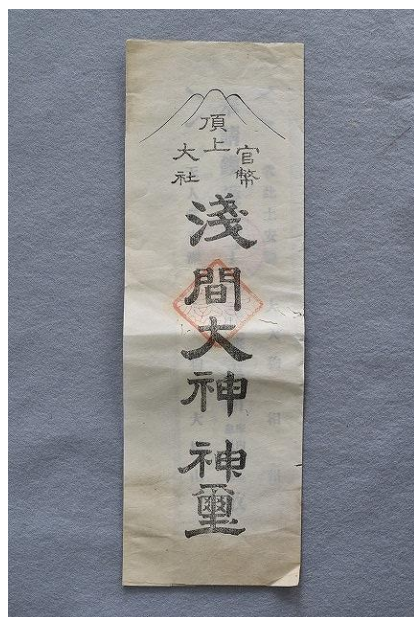
ミニ展示

「祈りのかたち～地域に残されたお札～」

令和2年6月2日(火)～6月28日(日)

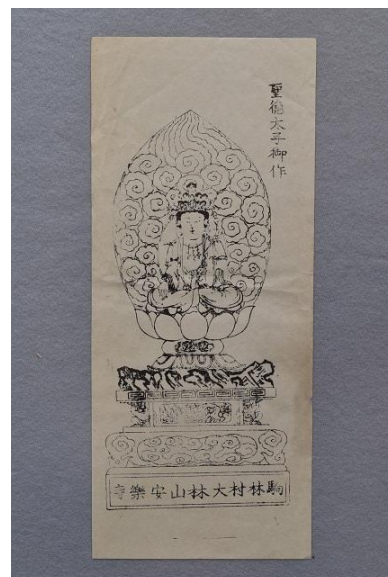
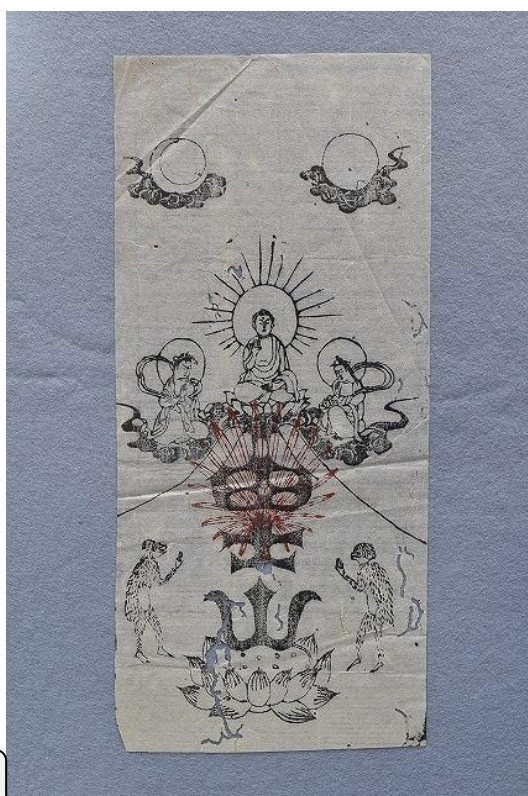
市内駒林地区の嶋田家には、江戸時代後期からの古文書の他に、多くのお札が残されています。昔の人々の様々な信仰の様子をお札からうかがうことができます。暮らしが豊かになるように、農作物が豊かに収穫できるように、村・家が栄えますようにといろいろな願いをこめて神社やお寺からお札をいただけてきました。

駒林地区のお寺の安楽寺や鎮守の駒林八幡神社のお札も残されていますが、遠距離にある伊勢神宮、三峯神社、武蔵御嶽神社、大山阿夫利神社、高尾山、富士山など旅に出て参詣したときにいただいてきたお札も多数残されています。また、お土産にいただいたと思われるお札や神仏の掛軸などもあります。



富士山頂上の富士浅間神社
のお札

富士山への願い



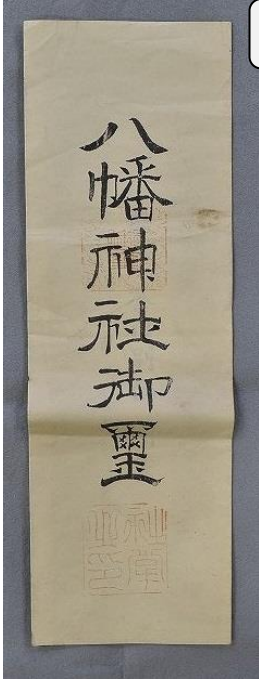
駒林村のお寺のお札

▲上；駒林村安楽寺の十一
面観音の御影

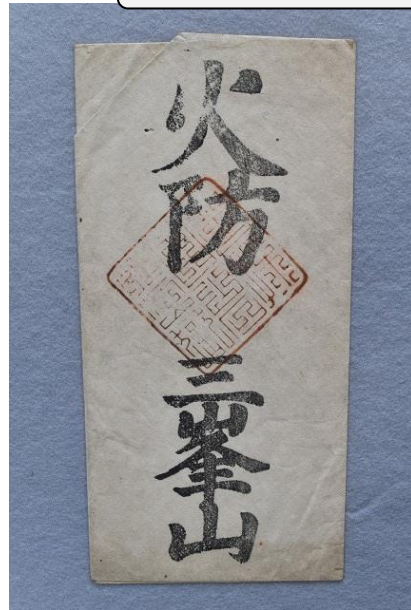
◀左；富士山のお札
(江戸時代終わり頃)

駒林村の神社のお札

駒林八幡神社のお札



山の神への願い



みつみね
三峯神社（埼玉県秩父市）
のお札

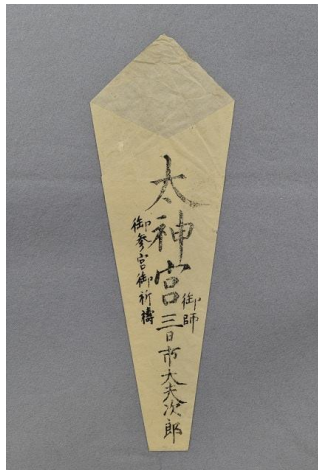


むさしみたけ
武蔵御嶽神社（東京都青梅市）のお札

信仰の旅は広がる



西国三十三か所観音巡礼霊場の掛軸
岐阜県から近畿地方に散在している観音霊場
にまつられている観音様を掛軸にしたもの



伊勢神宮のお札（上・右）
江戸時代から多くの人々が「一
生に一度は」という思いで伊勢
神宮（三重県伊勢市）にお参り
しました



あこがれの伊勢
神宮へ行こう



福神のお札

西宮大神宮のお札
（えびす様）